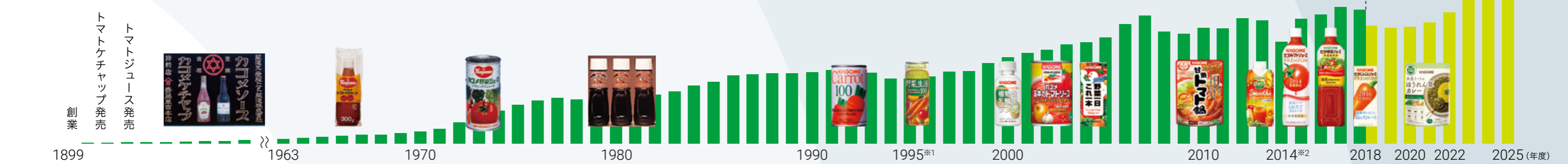


人が自然を、自然が人を豊かにする循環を 目指してきた127年の歩み

創業者・蟹江一太郎の、自然の恵みに感謝し農作物を大切に作る心、そして新しい価値を追い求める姿勢は、127年を経た今もカゴメのものづくりの原点として息づいています。

私たちはこれからも自然と人とのつながりを大切にし、「農から食にわたる技術革新」を育みながら、持続可能な未来と豊かな暮らしの実現に向けて世界を舞台に挑み続け、社会課題の解決と人々のウェルビーイングに貢献していきます。



※1 1995年度までは単体売上高、1996年度以降は連結売上高/売上収益を表示しています。 ※2 2014年度は事業年度変更に伴い、2014年4月1日～12月31日の9ヶ月間となっています。
※3 2019年度よりIFRSを適用しています。また、参考として2018年度のIFRSに準拠した数値も併記しています。

カゴメの原点

1899年トマトの萌芽を見る



蟹江一太郎は愛知県東海市(現在の農家に生まれ、農業による地域の発展を見据え、西洋野菜の栽培に挑戦しました。特に売れなかつたトマトも無駄にせず、加工の可能性に着目。米国の食文化を参考に、自己流でトマトピューレーを開発し、1914年に加工食品メーカーとして起業しました。

1875年～1971年
創業者
蟹江 一太郎

農

<p>1906年～ 原材料トマトの 契約栽培(委託栽培)</p> <p>大正末期の契約栽培</p>	<p>1961年～ 原材料トマトの 栽培技術開発</p> <p>無支柱栽培</p>	<p>1963年～ 原材料作物の品種改良</p> <p>品種交配によるトマト品種 の開発</p>	<p>1972年～ 国産のトマト収穫機の 開発</p> <p>加工用トマト収穫機</p>	<p>1993年 収穫効率の良いジュー ス用トマト開発</p> <p>ジョイントレス品種</p>	<p>1999年～ 生鮮野菜事業開始</p> <p>大型トマト温室</p>	<p>2019年 産地拡大に向けた品種 開発</p> <p>ジャガイモシストセンチュウ 抵抗性品種</p>	<p>2022年～ スマートアグリサービス</p> <p>DXAS(ポルトガル)</p>	<p>2024年～ CVCによる環境負荷低 減農業の推進</p> <p>高吸水ポリマーを使った 節水農業技術を活用</p>
---	---	--	--	--	---	---	--	---

食

<p>1910年 創業の頃</p> <p>国内初の自動トマト裏ごし 機を開発</p>	<p>1962年頃～ プラスチック容器の 開発</p> <p>プラスチック容器入りカゴメ ソース、トマトケチャップ</p>	<p>1975年頃～ 濃縮技術の高度化</p> <p>トマト果汁RO(逆浸透)濃縮 装置</p>	<p>1992年 にんじん搾汁技術の 開発</p> <p>フレッシュ・スクイザー</p>	<p>2022年 野菜の新たな可能性を 広げる技術開発</p> <p>野菜半熟化製法</p>
--	---	--	--	--

国際事業

農から生み出される価値をグローバルに広げる活動(国際事業の展開)

世界各国で原材料調達拠点を開拓するとともに、海外市場への進出を進めてきました。2000年代には米国でピザソースなどグローバルフードサービス向け製品の展開に成功したことを契機に、ヨーロッパ、オーストラリア、インドなどでも存在感を高め、グローバルトマトカンパニーとしての地位を確立しています。さらに、ASEANでは野菜飲料の普及に挑戦し、人々の健康意識の向上と市場拡大に取り組んでいます。

<p>1967年 台湾可果美 (台湾カゴメ)設立</p> <p>原材料調達と東南アジアへの 輸出</p>	<p>1988年 米国現地法人設立</p> <p>原材料調達と業務用ビジネスの 拠点</p>	<p>2003年 イタリアにVegitalia S.p.A.を設立</p> <p>冷凍グリル野菜の製造・ 輸出</p>	<p>2007年～2016年 ポルトガル・オーストラリア・インドに 現地法人を設立</p> <p>原材料加工事業と原 材料調達の拠点</p>	<p>2024年 米国のIngomar Packing Company, LLCを子会社化</p> <p>現地向けトマト加工品 の製造販売を強化</p>	<p>巨大な原材料調達基盤の 構築</p>
--	--	---	--	--	---------------------------

事業概況

当社グループの事業は、大きく「国内加工食品事業」と「国際事業」の2つのセグメントに分かれています。国内加工食品事業は、「飲料」「通販」「食品他」の3つのサブセグメントに分かれています。国際事業は「トマト他一次加工」「トマト他二次加工」の2つのサブセグメントに分かれています。

セグメント構成比(2025年度)

国内加工食品事業 (飲料 通販 食品他) 国際事業 (トマト他一次加工 トマト他二次加工 調整額) その他事業 調整額(事業セグメントに配分していないグループ本社機能に関する連結共通費用を含む)

国内加工食品事業

□ P.23~24

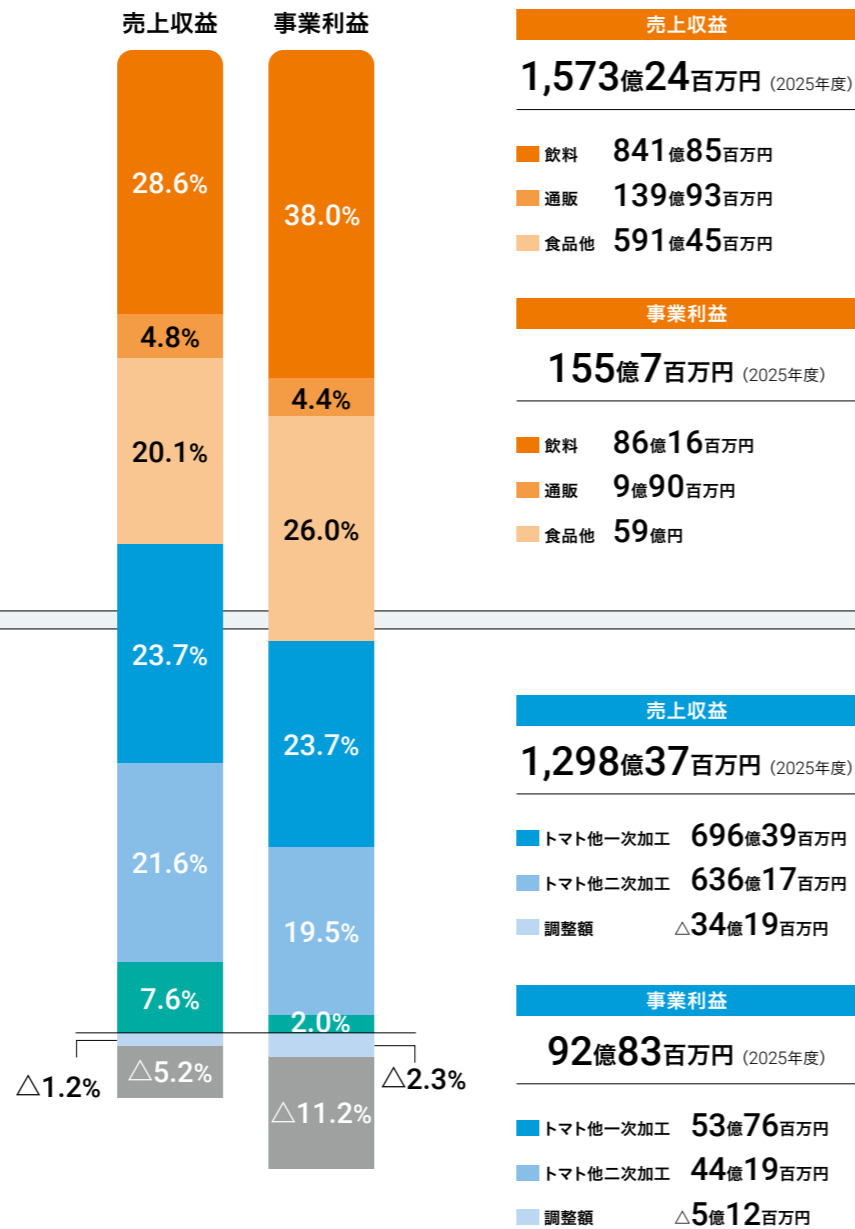
飲料、調味料、通販・贈答用製品などの製造、販売を手掛けています。



国際事業

□ P.25~26

農業生産、商品開発、加工、販売事業を展開しています。

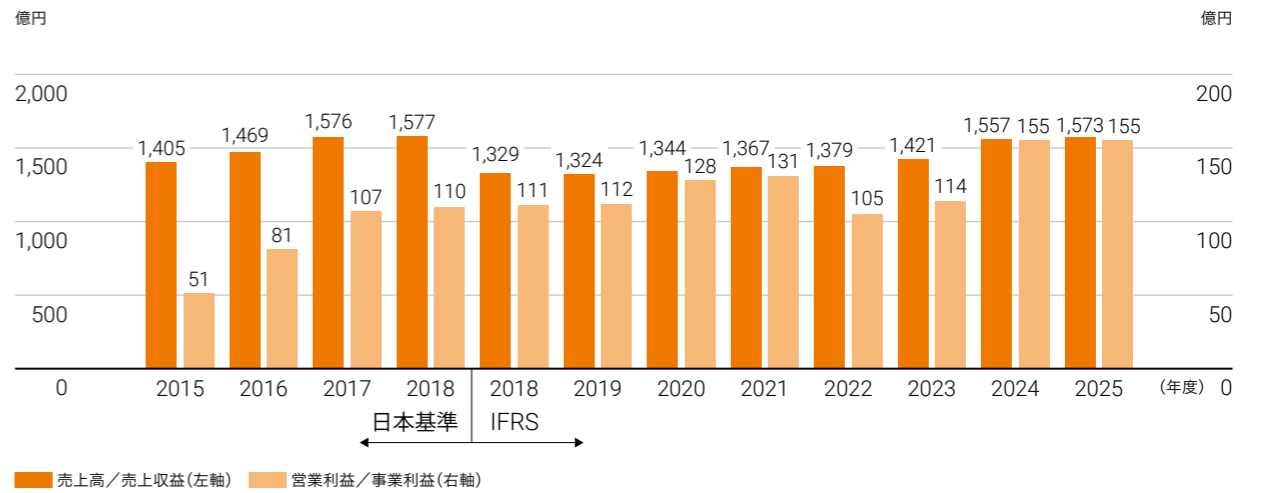


売上収益総計
2,942億64百万円

事業利益総計
226億94百万円

※ 2019年度よりIFRSを適用しています。また、ご参考までに2018年度のIFRSに準拠した数値も併記しています。
 ※ 2022年度及び2024年度より報告セグメントの区分を変更しています。2021年度及び2023年度についても、当該変更に基づき遡及して作成した数値を表示しています。

売上収益/事業利益の推移



売上収益/事業利益の推移

